

第59歩

「勝手にシンドバッド」がやってくる

「勝手にシンドバッド」。ご存知、国民的ロックバンド「サザンオールスターズ」（以下、サザン）のデビュー曲です。この歌を引っ提げて颯爽とサザンが登場してきたのは、私が大学に入学した1978年のことでした。リーダーの桑田佳祐（くわたけいすけ）さんが故志村けんさんのコントに着想を得て、当時はやっていた「勝手にしやがれ」と「渚のシンドバッド」を組み合わせ付けてという奇妙な曲名に、ビートの効いた底抜けに明るい曲調、意味深のようでよく分からない歌詞が、上京したてのうぶな大学生の頭に強烈な衝撃を与えました。そのサザンがついに、2月24日にオープンするサンポート高松の県立アリーナ（愛称：あなぶきアリーナ香川）に登場します。

残念ながら、私自身はチケットが入手できず、直接ライブを楽しむことはできませんが、大好きなバンドであるサザンが、1984年に高松市民会館で行われた公演以来、約40年ぶりに香川県内でのライブを行うことは、本当に嬉しいことです。個人的な感想で大袈裟に言えば、これだけでアリーナ建設の満足度効果の過半は満たされた気分です。

サンポート高松は、宇高連絡船の発着基地で四国の玄関口として栄えた高松駅周辺を香川県と高松市が連携して再開発したエリアです。そこに立地した県立アリーナは、県立施設ですが、高松市所有の底地の部分を県に無償貸付して、県市協調で新たなにぎわいの拠点として整備されたものです。

設計は建築界のノーベル賞と称されるプリツカー賞を受賞している金沢21世紀美術館などを設計した妹島和世（せじまかずよ）さんと西沢立衛（にしざわりゅうえ）さんによる建築家ユニットSANA A(サナア)の手によるもの。昔、NHKで放映されていた人形劇の舞台である「ひょっこりひょうたん島」を思わせるフォルムはユニークながら高松の港と瀬戸内海の風景に溶け込んでいます。オーストラリア・シドニーのオペラハウスに匹敵すると言っても過言ではなく、まさに世界都市・高松にふさわしい未来につながるランドマークとなり得るものであると期待しています。

